

● INDEX ●

- ◇ [大学教育改革プログラム合同フォーラムのご報告]
- ◇ [平成 21 年度「グローバル COE プログラム」の公募について]
- ◇ [平成 21 年度予算案のプログラム概要について]
 - (1) 大学教育・学生支援推進事業
 - (2) 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
- ◇ [(連載) GP 事業の成果と今後の展開 (第 9 回)]
- ◇ [関連記事掲載について]
- ◇ [編集後記—編集長 (大学改革推進室長) 今泉 柔剛]

● [大学教育改革プログラム合同フォーラムのご報告] ●

去る 1 月 12 日 (月・祝)、13 日 (火) に「パシフィコ横浜」にて大学教育改革プログラム合同フォーラムを開催しました。今年度も多数の方々にご来場いただき、熱気溢れるフォーラムとなりました。ご来場いただいた皆様、基調講演、パネルディスカッション、各分科会及びポスターセッションで講演、事例発表をしていただいた先生方に御礼申し上げます。当日の様子については、今後、文部科学省 Web サイトに掲載する予定ですので、是非ご覧ください。

なお、当日ご来場いただいた方を対象に行ったアンケートでは多くの貴重なご意見・ご要望をいただいています。次の機会に活かしていきたいと考えていますので、回答がまだの方等おられましたら FAX (03 (6734) 3387) までお寄せください。

● [平成 21 年度「グローバル COE プログラム」の公募について] ●

平成 21 年度開始の教育研究拠点形成計画を公募します。今回の公募対象分野は、「学際、複合、新領域」です。

公募に関する詳細、関係書類は、以下の文部科学省 Web サイト及び独立行政法人日本学術振興会 Web サイトに掲載していますので、ご覧ください。

【公募関係 URL はこちら】

文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/01/1217786.htm

独立行政法人日本学術振興会

http://www.jspss.go.jp/j-globalcoe/02_koubo.html

【スケジュール】

平成 21 年 1 月 9 日

(大学院博士課程を置く) 各国公私立の大学宛に公募通知

平成 21 年 1 月 9 日～2 月 18 日

公募受付 (1) (e-Rad) ※

平成 21 年 2 月 17 日、18 日
公募受付 (2) (書面) ※
平成 21 年 2 月下旬～5 月中旬
審査
平成 21 年 5 月下旬
選定結果公表・開示

※本事業への申請は、(1) 府省共通研究開発管理システム (e-Rad) による申請と、(2) 独立行政法人日本学術振興会への申請書類の提出の両方が必要です。

【本件担当】

大学振興課大学改革推進室 03 (5253) 4111 (内線 3312)

● [平成 21 年度予算案のプログラム概要について] ●

平成 21 年度の新規プログラムを中心に概要やポイントを説明しますので今後の検討の参考としてください。

この他のプログラム概要についても順次大学改革 GP ナビで紹介していきますのでご期待ください。
なお、詳細については、公募要領が決定次第お知らせする予定です。

(1) 大学教育・学生支援推進事業

本事業は、中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」で示されている、各大学における学士力の確保・教育力の向上や、経済・雇用情勢の急激な悪化への対応などの必要性を踏まえ、各大学における学部教育等の充実を図ることを目的とした「大学教育推進プログラム」と、私立大学を中心に各大学の就職支援の強化など総合的な学生支援の取組を推進することを目的とした「学生支援推進プログラム」を実施するものです。

主な内容

【大学教育推進プログラム】

- 1) 学士力の確保や教育力向上のための各大学の実践を促し、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を支援
- 2) 教育の質保証のための以下の事項に関する取組を公募
 - ・テキスト・教材等の開発・作成
 - ・成績評価の厳格化
 - ・単位の実質化に向けた学習支援
 - ・総合的な英語学習
 - ・初年次教育
 - ・教職員の職能開発 など
- 3) 公募に際し、各大学は達成目標を設定し、達成状況进行评估

【学生支援推進プログラム】

就職支援の強化など総合的な学生支援の取組を支援

- 1) 土日や休業期間中でも学生に求人情報を届けられるよう、在学生・卒業生の情報をデータベース化するとともに、メーリングシステムを導入
- 2) 休業期間中等の相談体制を維持するための非常勤職員等の確保や企業との情報交換会議を通じた、大学独自の求人の開拓・確保

3) ビジスマネー講座、プレゼンテーション能力講座などの資格取得を含む各種講座開設 など

申請件数や事業内容など、申請に当たっての詳細については決定次第お知らせすることとしています。

【本件担当】

[大学教育推進プログラム担当]

大学振興課大学改革推進室 03 (5253) 4111 (内線 3317)

[学生支援推進プログラム担当]

学生支援課厚生係 03 (5253) 4111 (内線 2519)

(2) 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

本プログラムは、国公立大学間の積極的な連携を推進し、各大学等における教育研究資源を有効活用し、教育研究水準のさらなる高度化、教育活動の質保証、大学の個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等とともに、地域と一体となった人材育成の推進を図ることを目的としています。

事業の内容としては、平成 21 年度と同様に、概ね 10 年程度を見通した将来目標や連携効果などを含む具体的な「大学間連携戦略」を策定し、教育・研究・社会貢献活動で大学間が連携した取組を支援することを予定しています。

平成 21 年度の主なポイントとしては、

1) 教育の質保証のための取組

例えば、単位互換の推進、FD・SD 活動、共通テキスト作成、標準コアカリキュラムの開発、相互認証など

2) 地域と一体となった人材育成の取組

例えば、共通プログラムの開発・実施、就職・キャリア支援、地域課題対応型プロジェクトなどを大学間が連携・協同して取り組むことを支援する予定です。

今後、申請件数や事業内容など、申請に当たっての必要条件について検討していくこととなりますが、平成 21 年度公募要領等も参考にいただき、連携する大学等間で申請に向けた検討を積極的に進めていただきたいと思います。

本プログラムの具体的内容や申請に向けた検討状況について随時個別の相談を受け付けていますので、下記担当までお問い合わせください。

【本件担当】

大学振興課大学改革推進室 03 (5253) 4111 (内線 3319)

● [(連載) GP 事業の成果と今後の展開] ●

第 9 回 担当者調査の紹介 (3) - GP への期待と課題

(村澤昌崇 広島大学高等教育研究開発センター・准教授)

担当者調査の報告も、最終回を迎えました。最後に、事業を継続していく上での課題と、GP 政策に対する期待を、紹介しましょう。

各機関は、GP により展開されてきた事業を GP 終了後も継続するのか、もし継続するのであればどの程度の規模で継続するつもりなのでしょうか。ここでは、特色 GP と現代 GP とに分けて見ていくことにしましょう。特色 GP については、今後同程度の規模での継続あるいは発展的に継続すると答えた担当者

が7割を超えていました。しかし今後の継続について見直しを検討している担当者もわずかながらいた点には留意する必要があるでしょう。現代GPについては、同程度の規模あるいは発展的継続をするという回答が6割程度でした。

では、GP事業が抱える課題はどのようなものだと担当者は認識しているのでしょうか。特色GP担当者がより多く指摘した課題は、志願者増や入学者の質向上、学生の進路確保や雇用先からの評価の問題でした。現代GP担当者が多く挙げた課題は、他の地域との連携、全学・全学科的取組の必要性、GPに対する学内措置の必要性、補助の継続でした。

つまり、すでに積み上げた実績に対して支援される特色GPは、成果をストレートに追求することが課題であると指摘しているのです。他方、アイデア重視の現代GPは、成果を求めるよりもまず事業を継続させるための補助の継続や、学内学外の体制整備を求めているのです。

最後に、GP担当者がGPにどのようなことを期待しているのかを紹介して、本連載を終えることにしましょう。全体的傾向としては「補助金使用の弾力化」を要望する声が多く、9割を超えています。次いで「採択された取組の事後評価」に対する期待も高く、8割を超えています。その他支援期間の充実、大規模な取組の取り上げ、テーマの増加、自主的な取組の申請、補助金の充実、採択件数の充実など様々な期待が寄せられており、いずれもが6~7割の担当者から寄せられていました。

ここで、調査を請け負った者として、「しまった」と感じた点がありました。GPへの期待としてあらかじめ用意した調査項目が、GPの申請・選定方法、採択件数、資金運用などにやや矮小化されていた点に気づいたからです。各機関としては、申請したGPを採択して欲しいという希望を述べるのは自然だし、状況の変化に応じて資金の弾力的運用を認めて欲しいという要望も自然でしょう。しかし本来、GPはより効果的な教育活動を模索・構築し活性化することにあつたわけであり、GPの獲得や運用自体が目的ではありません。GPを巡る政府・機関・社会が「GPは教育改革である」という本質的な点を見失わないことこそが、重要なのではないのでしょうか。【完】

大学改革GPナビ第64号から連載してきました「GP事業の成果と今後の展開」は残念ながら今回が最終回となりました。

広島大学高等教育研究開発センターで調査研究が行われた特色GPや現代GPの成果や今後の在り方について、その概要や調査結果を分かりやすく紹介いただき、GP事業について更に理解を深めていただけたのではないのでしょうか？

最後に、寄稿いただきました広島大学の先生方に御礼を申し上げます。(編集部)

● [関連記事掲載について] ●

文部科学時報（発行：株式会社ぎょうせい（毎月10日発行））では、これまでに特色GP・現代GP等で選定された取組の活動状況等について紹介していますが、1月号では、大学の国際化をテーマとし、以下の大学等からの報告を紹介しています。

（報告1）広島大学・立命館大学「国際大学間コンソーシアムを活用した修士プログラムの国際展開」
（平成19年度 大学教育の国際化推進プログラム選定取組）
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kokusai/inuactivity/index.html#link4>

（報告2）鈴鹿工業高等専門学校「日加共働実践型コーオプ教育プログラムの構築」
（平成19年度 大学教育の国際化推進プログラム選定取組）

◆文部科学時報とは！？

文部科学行政の「今」が読みやすく分かる、総合政策マガジンです。

上記のGP選定取組の現状・成果を紹介する「進む大学教育改革」の連載をはじめ、文部科学行政の様々な情報を提供しています。

1月号の特集は「どう活かすか。全国学力・学習状況調査」・「文化庁メディア芸術祭」です。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/jihou/detail/1217902.htm

● [編集後記—編集長（大学改革推進室長）今泉 柔剛] ●

「一隅を照らす、これすなわち国宝なり。」（天台宗伝教大師最澄の言）という言葉があります。意味するところは、自分がいるその場所や立場で最善を尽くすことで自分の周囲を照らすこと、そして、各人が、自分の周囲を照らすようにすれば、それを通じて社会全体が輝くことになる、そのことこそ国の宝であるというものです。1人1人ができることは小さいかもしれないけれども、その小さなことを精一杯行うことで、全体を照らすこととなるのです。そして、たとえ小さいことかもしれないけれども、全体を照らす一助となっていることで、その小さなことを精一杯行うことの意味が出てくるのでしょう。

今週（1月12日及び13日）、文部科学省及び財団法人文教協会主催で「大学教育改革プログラム合同フォーラム」（いわゆる「GPフォーラム」）が、パシフィコ横浜において開催されました。昨年を上回る盛況ぶりで、GP関係諸事業に対する各大学のなみなみならぬ熱意が感じられました。また、基調講演及びパネルディスカッション、各分科会並びにポスターセッションのいずれの会場においても、大学関係者が、相互にそれぞれの取組の良いところを学び取ろうとして、あちらこちらで活発に情報交換している熱心な参加ぶりが見られ、行政の役割として『『場』を設定するというそのことだけでも、大学改革を大きく前進させることができるものなのだ』と実感いたしました。

私は、この分科会及びポスターセッションにおいて紹介された各大学の取組は、まさに冒頭に記述した「一隅を照らす」ものであったとっております。個々の大学の取組の効果は、主として当該大学関係者とその周辺を照らすものではあるけれども、全ての大学が自らの周囲を照らせば、全国を照らすものとなると考えます。

我々、文部科学省大学改革推進室は、各大学が一隅を照らすための取組が継続して続けられるよう、そして、全ての大学がそれぞれの一隅を照らすことによって我が国全体を照らし続けることができるよう、各大学の取組を支援していきたいと思っております。

今後とも、各GP事業の関係について、アイデアがあったり、ご疑問等が生じた場合には、何なりとご相談いただければと思います。

◇文部科学省高等教育局大学改革推進室からGPに関する情報等を随時お届けしています。

「GP」とは「優れた取組」を表す「Good Practice」の頭文字をとった通称です。

「質の高い大学教育推進プログラム」の通称を「教育GP」と言っています。

◇ご登録いただいている各大学・短期大学・高等専門学校から学内の関係部署や希望者に転送する際は、お手数ですが担当の方は、転送メールであることを示した上で転送してください。

◇GPをはじめとする「国公私を通じた大学教育改革の支援」についての質問や提言などありましたら、daikaika@mext.go.jpまでメールを送信してください。

お送りいただくメールの件名はセキュリティの関係上、必ず「大学改革 GP ナビ（件名）」の形式でお願いします。

なお、ご質問等に関しては、個別にお答えしてまいります。皆さま方にご紹介することが適当と思われるものなどについては、ご質問をいただいた方に確認の上、大学改革 GP ナビ「GPに関するQ&A」などで回答する場合があります。

★このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

このままご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

★「大学改革 GP ナビ」の一般配信をご希望の方は以下の URL から申し込みをお願いします。

(新規登録・登録解除)

<http://www.mext.go.jp/magazine/index.htm>

大学改革 GP ナビ—Good Practice—

編集長：文部科学省高等教育局大学改革推進室長

発行：文部科学省高等教育局大学改革推進室

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

03(5253)4111(内線：3319、3321)

大学教育の充実—Good Practice—

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gp.htm

大学改革 GP ナビ—Good Practice—バックナンバー

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tokushoku/05060601.htm